

2. 札幌市

エコタウン名称	エコタウン札幌計画		
承認年	平成 10 年		
エコタウンの特長	地域内でのゼロ・エミッションを目指し、循環型社会の形成や環境産業の誘致による経済活性化を図るため、「エコタウン札幌計画」を策定した。 この計画は、循環型社会の形成に向けた市民の積極的な理解と参加を促進するためのソフト事業と施設整備の観点から循環型社会を促進するハード事業から構成されている。		
URL	http://www.city.sapporo.jp/seiso/recycledanchi/ecotown.html		
自治体の取組	財政面の支援	例) 補助金、優遇措置、等	・ ペットボトルフレーク化施設(北海道ペットボトルリサイクル(株)): 国庫補助 372 百万円、札幌市補助 4 百万円 ・ ペットボトルフレーク化施設(ポリテック(株)札幌工場): 国庫補助 480 百万円、札幌市補助 5 百万円 ・ 廃プラスチック油化施設(札幌プラスチックリサイクル(株)): 国庫補助 2,547 万円、札幌市補助 26 百万円 ※解散済(H23.1)
	事業面の支援	例) 独自の認定制度、展示会、商談支援、等	・ 容器包装リサイクルのための分別収集 PR 事業 ・ 環境美化運動推進のための地域リーダー育成事業 ・ 札幌ごみ情報ネットワークの構築
問合せ先窓口	担当部署名	環境局環境事業部企画課	
	担当者名	斉藤 紀裕	
	連絡先	電話番号	011-211-2912
		FAX	011-218-5108
		E メールアドレス	seiso-kikaku@city.sapporo.jp

2.1 中沼プラスチック選別センター

2.1.1 事業者情報

2.1.1 事業情報

名 称	中沼プラスチック選別センター		
本社住所	〒060－8611	札幌市中央区北1条西2丁目(札幌市役所)	
資本金、出資金	千円		
従業員数	40 人		
設立年月日	平成12年		
URL	http://www.kankyou-sapporo.jp/jigyo/jigyo02.html		
事業概要	市内で分別収集したプラスチック製容器包装廃棄物を対象に、再商品化できる状態にするため選別・梱包・保管する施設です。		
事業所写真			
問合せ先窓口	部署名	中沼プラスチック選別センター	
	担当者名	児玉 裕	
	連絡先	電話番号	011-790-4450
		FAX	011-790-4451
		Eメールアドレス	y.kodama@kankyou-sapporo.jp

2.1.2 技術情報

キーワード	廃プラスチック類			
技術名称	選別・圧縮・保管			
技術の分類	破砕・選別			
目的・用途	選別されたプラスチック製容器包装は、容器包装リサイクル法に基づき指定法人に引渡します。			
設備、製品等の写真、イメージ	 (製品ヤード)  (手選別ライン)			
処理フロー図	廃プラ⇒破袋機⇒回転ふるい機⇒振動ふるい機⇒アルミ選別⇒手選別⇒圧縮梱包(ボール化) ↓ 金属残渣 ↓ 残渣 ↓ アルミ ↓ PET, テープ, 金属, その他			
廃棄物の種類	一廃	廃プラスチック類 (PET除く)	受入条件、形状	ごみ袋
供給資源・製品	プラスチック製品		形状	ボール寸法: 1.2m×1.0m×1.0m
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等		
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等		
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	施設見学受入者数: 2,600 人 (平成 24 年度)	

2.1.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	廃プラスチック類	21,890	29,656	トン
受入可能量 (処理能力)	廃プラスチック類	－	82.6	トン/日
販売実績量の推移	プラスチック製品	19,357	25,526	トン
主な調達先	札幌市内の家庭ごみ			
主な供給先	公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会			

2.2 中沼雑がみ選別センター

2.2.1 事業者情報

名 称	中沼雑がみ選別センター		
本社住所	〒060－8611	札幌市中央区北1条西 2 丁目（札幌市役所）	
資本金、出資金	千円		
従業員数	37 人		
設立年月日	平成 21 年		
URL	http://www.kankyou-sapporo.jp/jigyo/jigyo02.html		
事業概要	市内で分別収集した「雑がみ」を対象に、再商品化できる状態にするため選別・梱包・保管する施設です。		
事業所写真			
問合せ先窓口	部署名	中沼雑がみ選別センター	
	担当者名	小幡 善昭	
	連絡先	電話番号	011-791-1074
		FAX	011-790-1431
		E メールアドレス	obata@kankyou-sapporo.jp

2.2.2 技術情報

キーワード	紙類			
技術名称	選別・圧縮・保管			
技術の分類	破碎・選別			
目的・用途	選別された「雑がみ」は、再商品化事業者等に売却します。			
設備、製品等の写真、イメージ	 (手選別ライン)  (梱包機)			
処理フロー図	雑がみ(新聞・雑誌・ダンボール)⇒一次手選別⇒破袋機⇒除袋機⇒磁選機⇒二次手選別⇒ペール化			
廃棄物の種類	一廃	古紙	受入条件、形状	ごみ袋
供給資源・製品	雑がみ規格外品		形状	ペール寸法: 1.1m×1.0m×2.0m

2.2.3 実績情報

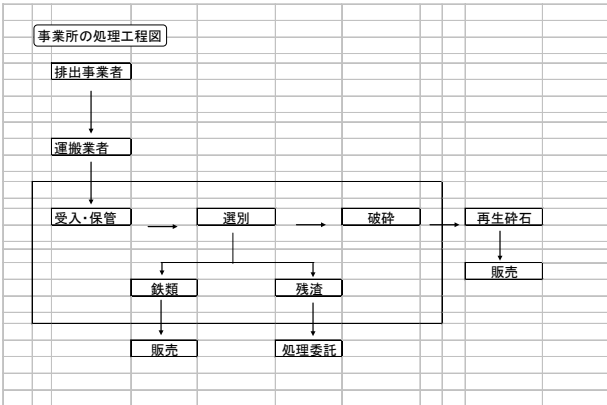
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	紙類	0	14,030	トン
受入可能量 (処理能力)	紙類	－	85	トン/日
販売実績量の推移	古紙	0	876	トン
	雑がみ規格外品	0	10,029	トン
主な調達先	札幌市内の家庭ごみ			
主な供給先	古紙－札幌市製紙原料事業協同組合 雑がみ規格外品－エコフィスジャパン(株)・(株)イーアンドエム			

2.3 札幌リサイクル骨材株式会社

2.3.1 事業者情報

名 称	札幌リサイクル骨材株式会社		
本社住所	〒007－0890	札幌市東区中沼町 45 番地 26	
資本金、出資金	53,750 千円		
従業員数	13 人		
設立年月日	平成 6 年		
URL	http://sapporo.recycle-kotsuzai.co.jp		
事業概要	産業廃棄物(コンクリート廃材及びアスファルト廃材)の中間処理 / 処理廃材の再生品販売		
事業所写真			
問合せ先窓口	部署名	総務	
	担当者名	熊木 隆司	
	連絡先	電話番号	011-792-4087
		FAX	011-792-4086
		E メールアドレス	t_kumaki@recycle-kotsuzai.co.jp

2.3.2 技術情報

キーワード	廃コンクリートの再生施設			
技術名称	再生砕石製造			
技術の分類	破碎・選別			
目的・用途	主に路盤材として使用されております。			
設備、製品等の写真、イメージ				
処理フロー図				
廃棄物の種類	産廃	がれき類	受入条件、形状	大きさ 100cm以内
供給資源・製品	コンクリート再生砕石		形状	RC40-0 RC80-0
	アスファルト再生砕石		形状	As40-0
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	排出業者の責務 廃棄物の適正処理及び建設リサイクル法遵守	
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	資源有効利用促進 天然資源の枯渇の抑制とリサイクル品の有効活用	
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	視察・見学等の問い合わせは当社でも可能ですが、札幌市リサイクル団地の管理運営会社 中沼プラスチック選別センターで(TEL011-790-4450)受け付けております。	

2.3.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	コンクリート殻	157,168	133,735	t
	アスファルト殻	7,819	9,979	t
受入可能量	コンクリート殻	－	150,000	t
	アスファルト殻	－	15,000	t
販売実績量の推移	コンクリート再生碎石	137,900	131,885	t
	アスファルト再生碎石	7,853	9,859	t
主な調達先	建設業			
主な供給先	建設業			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	製品の品質向上目的でかなりの費用を費やしベルコンラインの増設、回転式及び吸引式除去装置等を増設しております。従来見られた不純物の混入は極端に減少しましたが増設した装置は魔法の機械ではありません、排出業者様の分別が最も効果的であります。			

2.4 一般財団法人札幌市環境事業公社

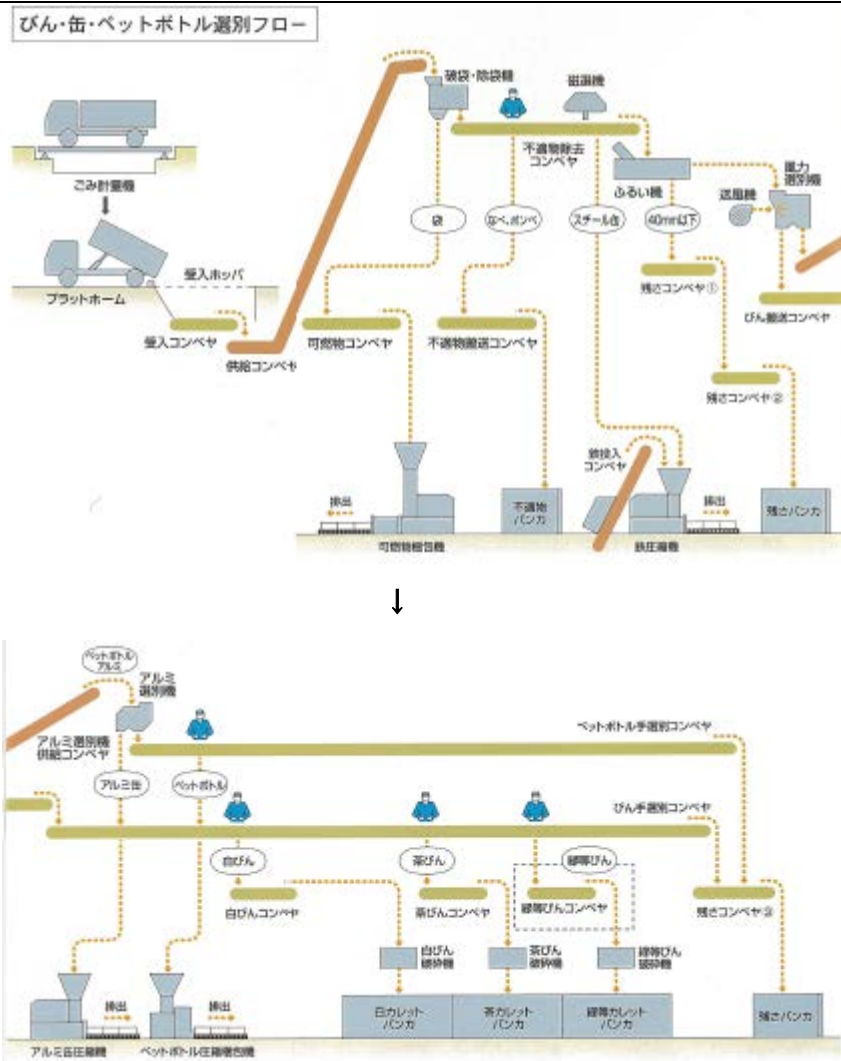
2.4.1 事業者情報

名 称	一般財団法人札幌市環境事業公社		
本社住所	〒060－0031	札幌市 中央区 北１条 東１丁目 サン経成ビル	
資本金、出資金	4,000 万円		
従業員数	78 人		
設立年月日	平成 ２ 年		
URL	http://www.kankyou-sapporo.jp		
事業概要	・調査啓発事業 ・不燃用プリペイド袋リサイクル事業 ・資源化事業 ・事業系ごみ収集運搬事業		
事業所写真			
問合せ先窓口	部署名	施設部 調整課	
	担当者名	井鳥 太郎	
	連絡先	電話番号	011－219－2053
		FAX	011－219－0882
		E メールアドレス	itori@kankyou-sapporo.jp

2.4.2 技術情報

キーワード	びん・缶・ペットボトル
技術名称	資源選別(びん・缶・ペットボトル)
技術の分類	選別及び減容・圧縮
目的・用途	資源物(びん・缶・ペットボトル)を選別しリサイクルする
特長	混合収集された資源物(びん・缶・ペットボトル)を品目ごとに選別し、圧縮・梱包等の処理を行い再商品化事業者へ引き渡して再生利用している
設備、製品等の写真、イメージ	ペットボトル梱包物  選別された資源物 (びん・缶・ペットボトル) アルミ圧縮物  中沼資源選別センター (びん・缶・ペットボトル選別施設)で 再選別し、圧縮・梱包した資源物(例) アルミ缶 ペットボトル スチール圧縮物  ●木くず主体ごみ → 破碎機 →  ●木くず  ●紙くず主体ごみ → 破碎機 →  ●紙くず  ●プラスチック主体ごみ → 破碎機 →  ●プラスチック  ●成形工程 前処理を終えた原料を成形機で圧縮し、 圓形化します。圧縮時に発生する摩擦熱で原料の組成成分であるプラスチックを溶かし、 圓形化に必要な接着の役目を果たしています。

処理フロー図



廃棄物の種類	一廃・産廃	びん	受入条件、形状	
	一廃・産廃	缶(スチール、アルミ)	受入条件、形状	
	一廃・産廃	PETボトル	受入条件、形状	
供給資源・製品	スチール		形状	圧縮物 (65cm × 65cm × 22cm)
	アルミ		形状	圧縮物 (65cm × 65cm × 22cm)
	ペットボトル		形状	梱包品 (64cm × 43cm × 35cm)
	ガラスびん		形状	カレット

アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	びん・缶・ペットボトル混合状態での受け入れが可能な為、混合収集を実施できる。また一年を通して安定処理できる施設である。
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	容器包装リサイクル協会が指定する品質基準の製品が一年を通して安定的に供給できる。
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	施設見学者数 平成 24 年度実績 3,295 人

2.4.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	アルミ	1,410.93	2,343.62	t
	スチール	2,037.10	2,317.32	t
	ペットボトル	4,348.05	4,833.44	t
	白びん	1,969.44	3,064.49	t
	茶びん	1,813.57	2,683.17	t
	その他びん	1,240.46	2,198.93	t
受入可能量	びん缶ペットボトル混合	－	約 28,000	t
販売実績量の推移	アルミ	1,410.93	2,343.62	t
	スチール	2,037.10	2,317.32	t
主な調達先	札幌市内家庭から排出される資源物(びん・缶・ペットボトル) 札幌市内事業所から排出される資源物(びん・缶・ペットボトル)			
主な供給先	再商品化事業者(ガラス・金属・PET)			

2.5 株式会社タイヤリサイクル北海道

2.5.1 事業者情報

名 称	株式会社タイヤリサイクル北海道		
本社住所	〒007-0890	札幌市東区中沼町45－55	
資本金、出資金	40,000 千円		
従業員数	6 人		
設立年月日	平成 10 年 2 月		
URL			
事業概要	・廃プラスチック類、金属くずの収集運搬業 ・廃タイヤの破碎と選別、ゴムホース、コンベアベルトの切断などを行っている 中間処理施設		
事業所写真			
問合せ先窓口	部署名	株式会社 タイヤリサイクル北海道	
	担当者名	平間 修	
	連絡先	電話番号	011(791)5349
		FAX	011(791)5342
		E メールアドレス	bz260345@bz04.plala.or.jp

2.5.2 技術情報

キーワード	廃タイヤ・ゴムチップ			
技術名称	廃タイヤ32分割破碎、コンベアベルト、ゴムホース切断			
技術の分類	収集・運搬、破碎・選別、切断			
目的・用途	廃タイヤ・チップは製紙会社、セメント会社などで燃料として使われています。			
特長	石炭などの化石燃料より安価でカロリーが高い			
設備、製品等の写真、イメージ	 ●ビードワイヤー抜き機 ●TB(トラック・バス)・LT(小型トラック)タイヤ自動育割機 ●TB(トラック・バス)・LT(小型トラック)タイヤ自動切断機 ●PC(乗用車)タイヤ自動育割機 ●PC(乗用車)タイヤ自動切断機			
処理フロー図				
廃棄物の種類	一廃・産廃	廃プラスチック類(PET除く)	受入条件、形状	原形のまま、泥などが入っていない
	一廃・産廃	その他金属くず(品目:鉄及びアルミホイール)	受入条件、形状	廃タイヤにホイール組みされている物のみ受入
供給資源・製品	廃タイヤ・チップ		形状	32 分割、16 分割(小さいサイズのタイヤ)で6 インチぐらいに切断

	廃タイヤ・チップ		形状	建設用タイヤ、コンベアベルトなどは一枚刃でデマンドサイズに切断
	金属くず		形状	原形のままで、出荷
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	排出される廃タイヤは燃料として再生利用される。鉄及びアルミホイールは再資源として有効利用される。	
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	・販売価格:6 インチ片 2,000~3,000 円 発熱量:8,000kcal(PCR タイヤ)	
	その他		全国で唯一、タイヤ販売会社を中心となって運営されている。	

2.5.3 実績情報

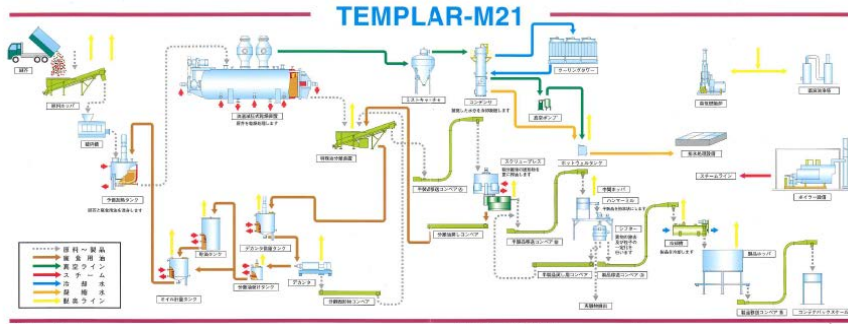
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	廃タイヤ	3,000	2,600	t
受入可能量	廃タイヤ	-	6,000	t
販売実績量の推移	廃タイヤ	3,200	2,500	t
	鉄くず	10	80	t
主な調達先	主にタイヤショップ、カーディーラー、ガソリンスタンド、運輸など			
主な供給先	主に製紙会社、セメント会社など			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	・自社で収集運搬車両を所有(2 台) ・TBタイヤ専用ビードワイヤー抜取機を設置			

2.6 三造有機リサイクル(株)

2.6.1 事業者情報

名 称	三造有機リサイクル(株)		
本社住所	〒007－0890	札幌市東区中沼町45番53	
資本金、出資金	55,000 千円		
従業員数	13 人		
設立年月日	平成 9 年		
URL	http://www.sor.co.jp		
事業概要	札幌市内の学校、ホテル、レストラン、食品工場等から排出される残飯・厨芥などの事業系生ごみをリサイクルし、飼料・肥料を生産し、資源の有効利用を推進し、環境整備に寄与しようとするものです。		
事業所写真			
問合せ先窓口	部署名	管理部	
	担当者名	佐々木 智章	
	連絡先	電話番号	011-792-3310
		FAX	011-792-3316
		E メールアドレス	sasaki@sor.co.jp

2.6.2 技術情報

キーワード	生ごみ、厨芥類、飼料、肥料			
技術名称	油温減圧式乾燥システム（TEMPLAR-21）			
技術の分類	加工・成型（再生品化）、メタン発酵（バイオガス化）、その他（生ごみ飼料化）			
目的・用途	生ごみを油温減圧乾燥システムによって処理し、鶏・豚用の飼料、肥料を製造しています。			
設備、製品等の写真、イメージ	処理施設の設備イメージ 製品写真			
処理フロー図				
廃棄物の種類	一廃	生ごみ （事業系一般廃棄物）	受入条件、形状	学校、レストラン、ホテル等から出る事業系生ごみ
供給資源・製品	飼料		形状	パウダー状
	肥料		形状	パウダー状
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	処理料＝14,300 円/ton	
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	高たんぱく飼料で飼料価値が高い。原料由来がはっきりしており安全性が高い。	
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	H.24 年度の施設見学者数＝163 名	

2.6.3 実績情報

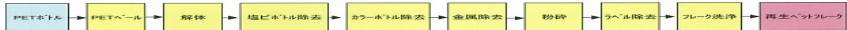
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	事業系生ごみ	16,532	16,895	ton
受入可能量	事業系生ごみ	－	19,924	ton
販売実績量の推移	飼・肥料原料	3,339	3,591	ton
主な調達先	(一財) 札幌市環境事業公社			
主な供給先	非公開			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	平成25年4月から稼働する、BGP 発電設備を建設中。			

2.7 北海道ペットボトルリサイクル株式会社

2.7.1 事業者情報

名 称	北海道ペットボトルリサイクル株式会社		
本社住所	〒007－0890	北海道札幌市東区中沼町45－58	
資本金、出資金	90,000 千円		
従業員数	17 人		
設立年月日	平成 10 年		
URL	http://www.hprhp.com		
事業概要	PET ボトルのフレーク化施設		
事業所写真			
問合せ先窓口	部署名	北海道ペットボトルリサイクル株式会社 工場長	
	担当者名	佐藤 祐輔	
	連絡先	電話番号	011-790-2345
		FAX	011-790-2346
		E メールアドレス	hpr@plum.ocn.ne.jp

2.7.2 技術情報

キーワード	廃 PET ボトル		
技術名称	再生 PET フレーク化技術		
技術の分類	破碎・選別		
目的・用途	再生フレークを原料とし、シートや繊維などを製造。シートでは卵パック等の食品トレイなど、繊維では自動車、インテリア、衣料用の繊維製品などの幅広い用途に使用されている。		
特長	安価で加工し易く、耐薬品性に優れている。		
設備、製品等の写真、イメージ			
処理フロー図			
廃棄物の種類	一廃	PETボトル	受入条件、形状 識別表示マーク付 PET ボトル、べール形状
供給資源・製品	再生 PET フレーク		形状 8mm 以下
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	識別表示付きの PET ボトルであれば、新たな資源としてリサイクルが可能であり、環境負荷の削減に貢献できます。
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	再生 PET フレークなので、安価で購入でき、製品の販売価格が抑えられます。リサイクル品の為、環境負荷の削減に貢献できます。
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	年間約830人の施設見学受入を実施(平成24年度実績)

2.7.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	PET ボトル	5,277	3,880	t
受入可能量	PET ボトル	－	10,938	t
販売実績量の推移	再生 PET フレーク	4,214	3,009	t
主な調達先	公益財団法人日本容器包装リサイクル協会に登録され、弊社が落札した市町村			
主な供給先	ポリテック株式会社・帝人株式会社			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	・約5千万円を投資して、破砕機の入替工事を行った。 (H21 年 機械老朽化)			